

やましろ

2014年10月

第18号



普及センターだより

「京やましろ新鮮野菜」の 取組を進めています!



京都やましろ

「京やましろ新鮮野菜」
のロゴマーク

山城産野菜の商品力と知名度を高めるため、平成23年度から、生産者、JA京都やましろ、京都南部青果（京印）、管内市町村、山城広域振興局が連携して、「やましろ新鮮野菜応援プロジェクト」を進めています。

登録された生産者には、のぼり等のPRグッズや生産物に貼るロゴマークシールを配付したり、鮮度保持技術や出荷規格、出荷調製技術の研修会を実施し、技術向上等の支援を行っています。また、大切な消費者との交流を進める取組を実施しています。



消費者のコマツナ収穫体験

アル・プラザ宇治東の販売コーナー

京都府山城北農業改良普及センター

〒610-0331 京田辺市田辺明田1 TEL.0774-62-8686

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/fukyu/からどうぞ>

京都府山城南農業改良普及センター

〒619-0214 木津川市木津上戸18 TEL.0774-72-0237

宇治茶GAPの取組について

「宇治茶GAP」は、生産者の経営と産地の持続的な発展を目的に、本年度から本格導入されており、普及センターも積極的に支援を行っています。

○取組方法と支援

生産者に配付される「点検シート」にある一つの項目について自己点検と改善に向けた取組を行うことにより、消費者の信頼を得る、より良い茶生産の実現をめざします。

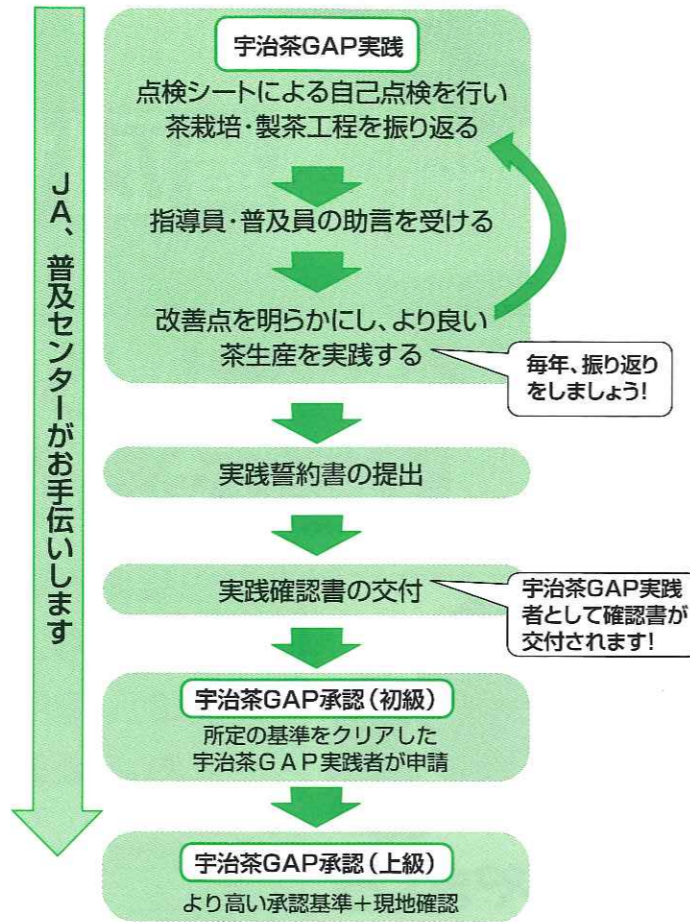
まずは、点検シートで自分の茶栽培・製茶工程を振り返り、お茶づくりに悪い影響を及ぼす要因（リスク）の有無と大小について検討してみましょう（下図の点検例参照）。振り返りや改善の取組については、JA、普及センターが助言をしますので、気軽に相談してください。

○宇治茶GAP制度の特徴

「宇治茶GAP」はGAPの実践から始め、承認（初級、上級）取得等の段階を進めることにより、スムーズにステップアップをすることができます（右図参照）。

制度の内容や手続きなど、不明な点は、JA、普及センターまでお問い合わせください。

☆ 平成26年度の実践誓約書及び承認申請書の提出期限は、平成26年11月末となっていますので、皆様の積極的な取組をお願いします。【宇治茶GAP推進プロジェクト】 ☆



山城地域茶生産者の皆さんのGAPへの思い

宇治茶GAPを、どんどんステップアップしていきたいと考えています。
(藤井啓さん：久御山町)

家族や従業員が怪我をしないよう、GAPに取り組んで行きましょう。
(森田裕一さん：木津川市山城町)

GAPを進め、宇治茶ブランドにふさわしい高品質な茶を生産し続けて行きましょう。
(木野正男さん：南山城村)

宇治茶GAP
～産地を支え、経営を守る～

将来にわたって茶を生産する環境を守るため、また、無駄なコストを削減していくためにも、GAPは重要だと思います。
(山崎徳一さん：木津川市加茂町)

宇治茶GAPは食品の安全性を示すためになくはないものです。宇治茶全体の改善につながることで、進めていきましょう。
(大谷優さん：八幡市)

「宇治茶」を守るために必要だと思います。
(森田木一さん：宇治田原町)

異物混入対策のためにも、GAPは大切だと思います。小さなことからコツコツと進めていきます。
(北澤喜則さん：城陽市)

GAPを実践することは、生産者として「やって当然」です。産地として取り組んで、消費拡大のためのアピール材料として推進しましょう。
(辻 四一郎さん：宇治市)

以前から異物混入対策を進めています。できるところからやっています。
(森田英雄さん：井手町)

消費者の方から信頼され、安心して買ってもらえるよう、みんなでGAPを進めましょう。
(松井徳之さん：和束町)

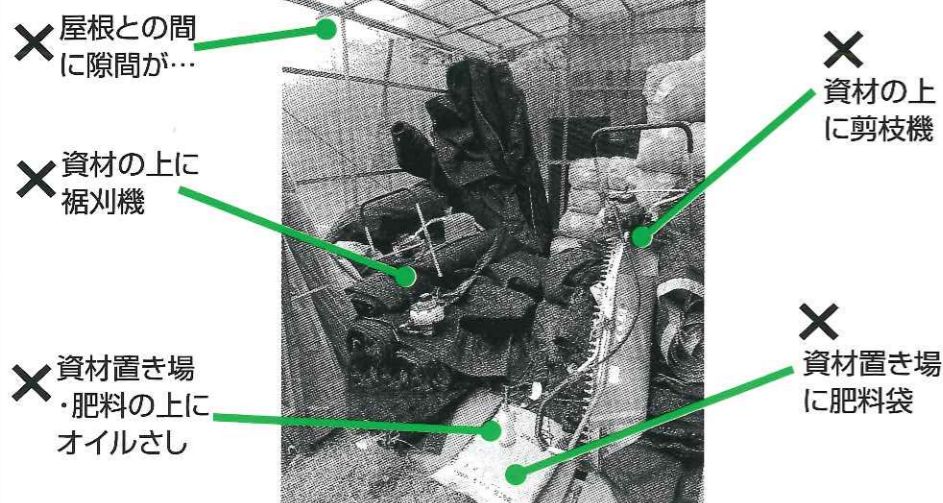
茶農家が生き残るためにもGAPの取組は重要です。
(出島藤司さん：京田辺市)

宇治茶GAPは、生産者の皆さんの茶業経営を持続的に発展させるための大切な取組です。産地の生産者、JA、関係機関、行政が一体となって積極的に取組んでいきましょう。
(JA京都やましろ 大原泰博茶業部長)



GAPの点検例 例えば被覆資材置き場

「ついつい」の行動や習慣が、リスクを大きくしてしまいます。



何気なく行っている、また、昔から習慣で行っている作業の中にリスクが隠れていないかを振り返って見ましょう。まだ、起こってはいないけれど、大変なことが起こってしまわないように、**まずは、リスクの高いところから、また、できるところから取り組んでみてください。**

(点検例の写真はイメージです。)

～農薬を安全に正しく使いましょう！～

茶品評会 審査結果

第67回関西茶品評会が滋賀県で、第68回全国茶品評会が宮崎県で開催されました。

☆関西茶品評会成績

農林水産大臣賞	(敬称略)
玉露	出島まり (京田辺市)
てん茶	菊岡理恵 (城陽市)

産地賞	
玉露	京田辺市
てん茶	城陽市

☆全国茶品評会成績

農林水産大臣賞	(敬称略)
てん茶	小山元治 (宇治市)

産地賞	
てん茶	宇治市

入賞された皆様、おめでとうございます。

～余裕のある作業で、事故を防ぎましょう！～

京のブランド産品「えびいも」を栽培してみませんか!

山城地域のえびいもは、京田辺市を中心に精華町、八幡市、木津川市加茂町などで生産され、平成25年度JA扱いは、栽培面積436a、出荷量65tと府内最大の産地として、市場からの取引期待が大きい有望な品目です。

○栽培のポイント

栽培は3月頃から大型トンネルやハウスで育苗することから始め、定植は霜の心配がなくなった4月下旬から5月上旬に行います。

良いえびいもをたくさん穫るには、夏場にかん水できる水田を用意することと、栽培中の土寄せ(4回程程度)が重要なポイントです。

収穫は10月下旬から始め、選別出荷します。出荷は箱出荷と小袋出荷で消費者に人気の



「こえびちゃん」の形があり、小さな芋も無駄にならず高収益につながっています。

○重要な種芋の確保

種芋は自家で穫りますが、降霜前に丸い25~50gのキズのない種芋を確保し、しっかり保存することが、翌年の良い栽培に大きく影響します。

○新たな品種「京都えびいも2号」

京のブランド産品の拡大のため収量が3~4割多い府育成の「京都えびいも2号」がブランド産地には供給され、反収は増加しています。

○えびいも農家養成塾の開催

JA京都やましろ京田辺市えびいも部会では、新規栽培者がベテラン農家の指導の下、実習を通じて栽培のポイントを学ぶ「養成塾」の取組を行っています。

ブランド産地をめざして、えびいも栽培を始めたい方、ぜひ、普及センターにお問い合わせください。

直売所紹介

「南山城村農林産物直売所～元気むら生き生き市～」村の魅力の発信拠点!

直売所は国道163号線沿いJR大河原駅徒歩3分の村の中心部にあり、オープンは平成15年で現在69名の会員で運営されています。

村内で生産された香り高いお茶はもとより、冷涼な土地を活かしたトマトなどの新鮮高原野菜が人気です。珍しいのがサカキヤシキミなどの取り扱いで、お盆や彼岸前には予約が入るほどの売れゆきです。



←大人気の「しい玉焼き」



おすすめは味香りとともに抜群の原木しいたけで、年中お手頃価格で販売されています。また、肉厚なしいたけのうま煮がたっぷり入った「しい玉焼き」はここでしか食べられない売り切れ御免の大人気商品。是非午前中にお越しください。

お客様は村外からも多く、新茶まつりやしいたけ&鍋まつりなど四季のイベントを通して、豊かな緑と心温かな村の魅力をお届けしています。